

エッチュウバイの資源管理に関する研究

(第2 県土水産資源調査)

道根 淳

1. 研究目的

エッチュウバイ資源の持続的利用を図るため、ばいかご漁業の漁獲実態を調査し、適正漁獲量、漁獲努力等の提示ならびに漁業情報の提供を行う。これにより、本資源の維持・増大とばいかご漁業経営の安定化を図る。なお、調査結果の詳細については、後述する「平成 21 年度の漁況」に記載した。

2. 研究方法

(1) 漁業実態調査

当センター漁獲システムによる漁獲データと各漁業者に記入依頼を行っている操業野帳を解析し、本種の漁獲動向、資源状態、価格動向、漁場利用について検討を行った。

(2) 資源生態調査

J F しまね大田支所管内ならびに仁摩支所に水揚げされる漁獲物の殻高を銘柄別に測定し、銘柄別漁獲箱数から本種の殻高組成を推定した。また、村山・由木が求めた Age-length Key を用いて漁獲物の年齢組成を求め、さらに日別漁獲データをもとに DeLury 法による資源解析を行った。

3. 研究結果

(1) 漁業実態調査

平成 21 年のエッチュウバイの漁獲量は 69 トン、また 1 隻当り漁獲量は 11.5 トンであり、平年を 23% 下回り、平成元年以降、平成 17 年に次いで低調な水揚げとなった。一方、水揚金額は 2,628 万円、1 隻当りの水揚金額は 438 万円であり、平年を 34% と大きく下回り、平成元年以降、最低の水揚げであった。1kg 当たりの平均価格は依然として低水準であり、350~380 円/kg で推移している。

(2) 資源生態調査

資源状態の指標となる 1 航海当り漁獲量は 385kg であり、前年 (522kg) を大きく下回り、

平成 17 年以來の 400kg を割り込む数値となった。また、1 航海当りの漁獲個数の推移は、平成 12 年以降低い水準で横ばい傾向にあり、資源状況は依然低水準状態が続いている。

4. 研究成果

調査で得られた結果は、島根県小型機船漁業協議会ばいかご漁業部会の資源管理指針として利用されており、これをもとに漁業者が自主的に漁獲量の上限を設定し、使用かご数の制限などの資源管理が行われている。

5. 文献

村山達朗・由木雄一：島根県水産試験場事業報告書（平成 4 年度），64-69（1991）。